

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		はなぶが		公表日 2025年 3月 31日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	児童の定員に対して平米数は満たしているが、運動などの活動の際には部屋を分ける等し工夫している。	今後も状況に合わせて都度対応をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	3	事例検討研修機会を設けている。	休憩時間を考慮し配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	4	子どもの特性に応じて必要な時には対処している。視覚支援スケジュールを掲示している。	荷物の置き場所の位置を低い場所に変更し自分(児童)の荷物を置きやすくする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	掃除は毎日行い、次亜塩素酸・アルコールで拭き取るなどをし、感染症対策を行っている	活動に応じ危険性が考えられる障害物等を整理・移動する
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	利用児童の要望等に応じて対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	2	グループラインによる情報共有及び定期的なミーティング、個別支援会議への参加	会議等不参加のスタッフに対して別日に会議の開催
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	把握する機会を設けていると思うが、その内容が支援者全員で共有できると良い。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	ミーティングなどによる意見交換の実施	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	法人内、外部研修を開催している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	適切に支援プログラムを作成、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	・児童個々に合わせたミッションや遊びながら学べるプログラムを毎日プリントして指示を頂ける所。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	・気になった点や対処方法など児童日々のメンタルに合わせグループラインで共有できている所。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	個々のファイルを職員がいつでも見る事が出来る。個別の課題をプリントして掲示している。	スタッフ全員への周知確認を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	五領域に応じたアセスメントシート、チェックシートを活用して確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	具体的な支援内容を設定しており、スタッフが常に見れるようになっている。	スタッフ全員への周知確認を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	各曜日のチームごとに活動前のミーティングにより立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	状況に合わせ、毎日活動プログラムを設定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	個々の力量及び集団での支援を考慮し全体の流れに沿った支援計画を作成し実行している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	2	役割や活動内容をスケジュールに記載し、掲示し、確認を行い連携しながら支援している。	出勤時間に応じてスタッフ間で確認を行う。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	その日のうちには難しいが、後日ミーティングを行ったり、その場で気づいた点を話し合う事もある。 ミーティング、LINEを上手に利用して毎日日々の状況が共有されている。	支援日誌・グループラインの確認及び参加できなかったスタッフに対し打ち合わせと振り返りの共有をする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	職員が提案などしやすい環境になっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	利用時に個別支援をする中で見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	担当スタッフ、及び児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	地域医療協力機関の2ヶ所確保、その他の関係機関とは定期的に連携している。	連携機関との情報のスタッフとの情報共有
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1	定期的に訪問および当事業所に来所していただき情報共有の上、相互理解を行っている。	情報共有の内容をスタッフに報告し周知の徹底
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	支援シートに記入して提出している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	0	0		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1		
	31	(31は、事業所のみ回答)	8	1	療育センターなどと連携して助言を受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	屋外活動や公共施設、イベントなどで交流を行っている。	地域のイベント参加や屋外活動を増やす。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・毎日連絡帳でのやりとりや送迎の際、保護者の方とコミュニケーションを取り、共有しやすい関係を築けている所。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	家族に対して情報提供や個別の相談を受けている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	利用契約時に丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	ご家庭に訪問や事業所での面談を行っている。	スタッフに対して面談内容を報告、認知させる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	2	ご家庭に訪問・での説明で同意を得ている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	その都度必要に応じ助言、面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	夏祭り、クリスマス会等の年中行事の中で交流を行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0		

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	2	個人情報の書類等については鍵付き書庫にて ほかんしている。	支援に必要な個人情報の書類閲覧は担当者の 許可の上閲覧とする
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 をしているか。	7	1	保護者については基本的に連絡帳等にて確認 を行う。利用者についてはジェスチャーや視 覚支援を活用し行う。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。	7	1	餅つき大会等により地域交流を行っている。	
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するととも に、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	・マニュアルはあるが、訓練が必要。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備 え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	避難訓練の回数を増やす必要があると思う。	訓練の回数を増やす。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し ているか。	8	0	利用契約時に確認しアセスメントシートに記 載し、通常保護者との連絡により状況確認	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応 がされているか。	8	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措 置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全 計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について 検討をしているか。	8	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を しているか。	0	0	アンガーマネジメントを含む虐待防止の研 修を内外合わせ年2回実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に 決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児 童発達支援計画に記載しているか。	0	0	現在身体拘束が必要な利用ケースが見受けら れない。	

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	はなぶふ			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	15
○従業員評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	9
○事業所向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内だけでなく外活動も多く取り入れ、色々な場所や様々な事を経験できるようにしている。	・近隣の公園や地域外の公園、コミュニティセンターや市民プラザなどへ外出し、色々な場所へ適応できるよう外活動をよく行っている。 ・歩行時は交通ルールや集団行動を意識出来るよう誘導。	今後は公共機関を使つての外出や、子ども達が主体となって活動を考え取り組めるような機会を作って行きたい。 今後も季節を感じられるイベントを企画、立案、実行していきたいと思います。
2	活動プログラムが固定化されないよう毎回工夫している。	・集団と個別、静と動を組み合わせ行っている。 ・季節ごとの制作活動やイベントを企画している。 ・取り組みの様子に応じてプログラムの修正や立案を行っている。 ・サーキット運動など特性に合わせた運動を行っている。	活動のねらいが具体的になるよう、一人ひとりの支援内容について振り返りやミーティングの場を持ち、支援の質の向上を図る。
3	庭があり、家庭菜園やプール活動、季節の植物で四季を感じる事が出来る環境。	・食育。家庭菜園で野菜の栽培、収穫を行っている。自分たちで収穫しみんなで食べる事で偏食のお子さんもチャレンジしてみようが増えている。 ・夏休みにはタープ、プールを設置、気温や水分補給、把握体勢を整え安全に配慮しながらプール活動を行っている。	・自分たちで育てて収穫した野菜の調理方法なども子ども主体で一緒に考え調理する。作る過程での子ども同士の関わりも支援していく。 ・必要に応じて水遊びのおもちゃを取り揃え、物の貸し借りやプールでの約束事などの指導を行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信	現在、ブログ、Instagramやお便りの発信が休止している	4月からブログやInstagram、お便りでの発信を再開する。
2	全職員、児童が避難訓練に参加出来ていない。	年2回の訓練では参加できる職員や児童に限られてしまい全員が訓練を行う事ができていない。	年2回ではなく全ての曜日で出来るよう年間を通じて曜日を交えながらシェイクアウト訓練や避難訓練の回数を増やしていけるよう日程調整を行う。
3	補助職員が少ない	複数の学校の下校時間が重なった時など、職員が送迎に出る事もあり全員揃うまで手薄になってしまう時間が発生してしまう。より手厚い支援や安全確保の観点から補助職員を配置したいが、配置が難しい日がある。	・職員の増員を検討する。 ・スケジュールの組み方を工夫する。

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

公表日 2025年 3月 31日

事業所名		公表日			
はなぶら		2025年 3月 31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	・他施設を利用する。	特性に応じて人数分けをし活動する
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	利用児童の特性に合わせてスタッフを配置している。	職員の配置は基準を満たしているが状況に応じて応援体制を整えていきたい。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	子どもの特性に応じて必要な時には対処している。視覚支援スケジュールを掲示している。	荷物の置き場所の位置を低い場所に変更し自分(児童)の荷物を置きやすくする。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	掃除は毎日行い、次亜塩素酸・アルコールで拭き取るなどをし、感染症対策を行っている	活動に応じ危険性が考えられる障害物等を整理・移動する
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	利用児童の要望等に応じて対応している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	グループラインによる情報共有及び定期的なミーティング、個別支援会議への参加	会議等不参加のスタッフに対して別日に会議の開催
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	把握する機会を設けていると思うが、その内容が支援者全員で共有できると良い。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	ミーティングなどによる意見交換の実施	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	定期的に理事、地域の方々等の訪問参観を行い意見をいただく。	評価結果を真摯に受け止め改善し、第三者の訪問を促す
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	法人内、外部研修を開催している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	適切に支援プログラムを作成、公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	・児童個々に合わせたミッションや遊びながら学べるプログラムを毎日プリントして指示を頂ける所。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・気になった点や対処方法など児童日々のメンタルに合わせてグループラインで共有できている所。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	個々のファイルを職員がいつでも見る事が出来る。個別の課題をプリントして掲示している。	スタッフ全員への周知確認を行う。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	五領域に応じたアセスメントシート、チェックシートを活用して確認している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	具体的な支援内容を設定しており、スタッフが常に見れるようになっている。	スタッフ全員への周知確認を行う。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	各曜日のチームごとに活動前のミーティングにより立案を行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	状況に合わせて、毎日活動プログラムを設定している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	個々の力量及び集団での支援を考慮し全体の流れに沿った支援計画を作成し実行している。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	2	役割や活動内容をスケジュールに記載し、掲示し、確認を行い連携しながら支援している。	出勤時間に応じてスタッフ間で確認を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	その日のうちには難しいが、後日ミーティングを行ったり、その場で気づいた点を話し合う事もある。ミーティング、LINEを上手に利用して毎日日々の状況が共有されている。	支援日誌・グループラインの確認及び参加できなかったスタッフに対し打ち合わせと振り返りの共有をする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	職員が提案などしやすい環境になっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	利用時に個別支援をする中で見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	0	担当スタッフ、及び児発管が参加している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	地域医療協力機関の2ヶ所確保、その他の関係機関とは定期的に連携している。	連携機関との情報のスタッフとの情報共有
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	定期的に訪問および当事業所に来所していただき情報共有の上、相互理解を行っている。	情報共有の内容をスタッフに報告し周知の徹底
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	地域医療協力機関の2ヶ所確保、その他の関係機関とは定期的に連携している。	連携機関、スタッフとの情報共有
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	都度相互に連絡し対応、把握している。	連携機関、スタッフとの情報共有
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	未就学時からの利用児童については情報共有している。	今後は更に連絡をとるなどをして相互理解に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	療育センターなどと連携して助言を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	屋外活動や公共施設、イベントなどで交流を行っている。	地域のイベント参加や屋外活動を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		今後協議会への参加を検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	毎日連絡帳でのやりとりや送迎の際、保護者の方とコミュニケーションを取り、共有しやすい関係を築けている所。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	家族に対して情報提供や個別の相談を受けている。	今後ご家庭での困り感などを確認する機会を設
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っているか。	6	0	利用契約時に丁寧に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者及び児童との面談を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	保護者と面談の上、説明し同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	その都度必要に応じ助言、面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	2	保護者会はありませんが夏祭り、クリスマス会等の年中行事の中で交流を行っている。	保護者同士が交流できる機会を企画したいと思います。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	はなぶる便り、インスタグラムにより発信している。	発信回数を増やして行きたい。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の書類等については鍵付き書庫にて ほかんしている。	支援に必要な個人情報の書類閲覧は担当者の 許可の上閲覧とする
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を しているか。	8	0	保護者については基本的に連絡帳等にて確認 を行う。利用者についてはジェスチャーや視 覚支援を活用し行う。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。	4	2	餅つき大会等により地域交流を行っている。	今後は町内主催イベント参加などで交流を 行って地域交流を図っていく
非常時等の 対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染 症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発 生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・マニュアルはあるが、訓練が必要。	訓練の回数を増やす。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、 定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	避難訓練の回数を増やす必要があると思う。	訓練の回数を増やす。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認して いるか。	8	0	利用契約時に確認しアセスメントシートに記 載し、通常保護者との連絡により状況確認	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応が されているか。	8	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置 を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計 画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検 討をしているか。	8	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をし ているか。	7	0	アンガーマネージメントを含む虐待防止の研 修を内外合わせ年2回実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決 定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後 等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	現在身体拘束が必要な利用ケースが見受けら れない。	

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	はなぶぶ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ～ 2025年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内だけでなく外活動も多く取り入れ、色々な場所や様々な事を体験できるようにしている。	・近隣の公園や地域外の公園、コミュニティセンターや市民プラザなどへ外出し、色々な場所へ適応できるよう外活動を多く行っている。 ・歩行時は交通ルールや集団行動を意識出来るよう誘導。	今後は公共機関を使つての外出や、子ども達が主体となって活動を考え取り組めるような機会を作って行きたい。今後も季節を感じられるイベントを企画、立案、実行していきたいと思います。
2	活動プログラムが固定化されないよう毎回工夫している。	・集団と個別、静と動を組み合わせ行っている。 ・季節ごとの制作活動やイベントを企画している。 ・取り組みの様子に応じてプログラムの修正や立案を行っている。 ・サーキット運動など特性に合わせた運動を行っている。	活動のねらいが具体的になるよう、一人ひとりの支援内容について振り返りやミーティングの場を持ち、支援の質の向上を図る。
3	庭があり、家庭菜園やプール活動、季節の植物で四季を感じる事が出来る環境。	・食育。家庭菜園で野菜の栽培、収穫を行っている。自分たちで収穫しみんなで食べる事で備食のお子さんもチャレンジしてみる様子が増えている。 ・夏休みにはタープ、プールを設置、気温と水分補給、把握体勢を整え安全に配慮しながらプール活動を行っている。	・自分たちで育てて収穫した野菜の調理方法なども子ども主体で一緒に考え調理する。作る過程での子ども同士の関わりも支援していく。 ・必要に応じて水遊びのおもちゃを取り揃え、物の貸し借りやプールでの約束事などの指導を行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信	現在、ブログ、Instagramやお便りの発信が休止している	4月からブログやInstagram、お便りでの発信を再開する。
2	全職員、児童が避難訓練に参加出来ていない。	年2回の訓練では参加できる職員や児童に限られてしまい全員が訓練を行う事ができていない。	年2回ではなく全ての曜日で出来るよう年間を通じて曜日を変えながらシェイクアウト訓練や避難訓練の回数を増やしていけるよう日程調整を行う。
3	補助職員が少ない	複数の学校の下校時間が重なった時など、職員が送迎に出る事もあり全員揃うまで手薄になってしまう時間が発生してしまう。より手厚い支援や安全確保の観点から補助職員を配置したいが、配置が難しい日がある。	・職員の増員を検討する。 ・スケジュールの組み方を工夫する。